

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果を受けて

帯広市立豊成小学校 校長 板谷 裕康

1. 実施日 平成28年4月19日

2. 児童の実態（平成28年度全国学力・学習状況調査結果より）

「国語A：主として知識」

- ◎すべての領域において、全道・全国の平均正答率を上回っています。
- 国語科を窓口に関内研修を行うと共に、課題とまとめを常に意識した授業改善に継続して努めてきた成果と考えられます。
- 日常の授業改善、読書活動の充実、朝読書、朝学習、宿題、日常の繰り返し学習、丁寧な個への指導の充実等の成果が表れていると考えられます。
- すべての設問で全道・全国の平均正答率を上回り「言語についての知識・理解・技能」の漢字やローマ字の読み書きなど、積み重ねが大切となる設問についても好結果を残しました。児童の目的意識と意欲を喚起しながら、学習内容の定着に向け、丁寧な取組を継続していきます。

「算数A：主として知識」

- ◎すべての領域において、全道・全国の平均正答率を上回っています。
- 指導方法工夫改善による丁寧な個への指導の充実や、終末部分を大切にされた日常指導の成果が表れていると考えます。
- 全般的に無回答率が低く、自らの考えをもつことができていることがわかります。
- ◆一方で、全国に比べ低かった設問は末尾の位がそろっていない小数のたし算と、単位量あたりの大きさを求めるものです。児童の実態に合わせた習熟度別少人数指導体制を更に充実させる等、授業改善を一層進めると共に、見直しの大切さを徹底する等、きめ細やかな指導で定着を図っていく必要があります。

「国語B：主として活用」

- ◎すべての領域において、全道・全国の平均正答率を上回っています。
- 国語Aでも述べましたが、校内研修を中心とした国語科の授業改善の取組や、朝読書の活動等の成果が表れていると考えられます。また、国語の授業だけではなく学校生活の様々な場面で言語活動を意識した取組を推進してきた成果も表れてきたと考えます。
- ◆全国平均を下回った設問は「表現を効果的に工夫する」でした。表現の方法や工夫に目を向けることを日常から意識させ、読む力や書く力を一層高めるよう指導する必要があると考えています。

「算数B：主として活用」

- ◎すべての領域において、全道・全国の平均正答率を上回っています。
- 算数Aでも述べましたが、日常の授業改善のほか、指導方法工夫改善の効果的な活用を常に意識した取組等が好結果をもたらせていると考えます。
- ◆全国平均を下回ったのは、1ポイント未満の差のもの（2つ）も含めると4つの設問がありました。こうした結果から、今後の本校の強化ポイントとして考えているのは「数量や図形についての技能」の一層の強化です。低学年からの基礎・基本の確かな定着や、操作活動を行う学びの機会を一層増やす等、より活動的な対応との結び付きが重要だと考えています。

「学習状況調査」より

【全国の平均値に比べ良かった項目（抜粋）】

- 「国語の勉強が好き」 ○「国語の勉強よくわかる」
 - 「算数の授業は社会に出て役立つと思う」 ○「友達の話や意見を最後まで聞く」
 - 「友達の前で自分の考えや意見を発表するのが得意だ」
 - 「学級みんなで協力して何かをやり遂げた嬉しいことがある」
 - 「学校の宿題をする」 ○「家で教科書を使いながら学習する」
 - 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」
- また、「算数の授業は、よくわからない」という児童は0%でした。

【改善を図っていかなければならない項目（抜粋）】

- ◆「朝食をあまり食べない」と答えた児童が全国より多くいます。
- ◆「学校のきまりを守る」と答えた児童の割合が全国より少ない結果となっています。
- ◆「携帯等での通話・メールが3時間以上」と答えた児童が全国より多くいます。



(1) 全国学力・学習状況調査の結果から、特に国語科において過去5年間国語科を窓口に関し、校内研修、授業改善に努めてきた成果が表れ、今年度も全国の平均正答率を大きく上回る結果を残すことができました。また、算数科においてもすべての領域で全国の平均正答率を上回るという好結果を残すことができました。

今後も引き続き、校内研修との関連による授業改善や、朝学習、宿題・家庭学習の取組の充実、指導方法工夫改善による細やかな個への対応などにより確かな学力の向上を目指していきます。

(2) 「学校の宿題をする」、「家で教科書を使いながら学習する」と回答する児童が全国の平均値を大きく上回ったことに喜びを感じます。今年度も「家庭学習の手引き」を配付して、家庭と連携しながら家庭学習の習慣を定着させることに努めてきた成果が表れたと考えます。基本的な生活習慣を身に付けるという点についても、家庭との連携の大切さを考え取組を進めていきたいと思ひます。また、規範意識を高めるという点においては学校での指導を充実させていくことはもちろんですが、本校の特色であるキャリア教育の取組と関連させ、地域の教育力を活かすという観点も大切にしなが児童に働きかけていきたいと考えています。

3. 目標（全国学力・学習状況調査の結果を受けて）

(1) 学習意欲を高め、社会で生きる実践的な力を身に付けるために、身近な課題に基づいた体験的・問題解決的な学習を重視した教科指導やキャリア教育の充実に引き続き努める。

(2) 基礎的・基本的内容を確実に定着させるため、習熟度別少人数指導等、指導方法の工夫改善を図り、目標・指導・評価の一体化を重視した授業改善を行う。

☆数値目標①全学年の国語科各領域の単元テストにおいて、平成28年度中に85点以上得点できる児童を8割以上にする。

☆数値目標②全学年の算数科単元テストにおいて、平成28年度中に85点以上得点できる児童を8割以上に、また文章問題についても80点以上得点できる児童を8割以上にする。

(3) 家庭・地域（文教ゾーン）と連携し、家庭学習習慣の確立を図る。

☆数値目標③4～6学年において、学校の授業時間以外に1日当たり（学年×10+10）分、勉強していると回答する児童の割合を8割以上にする。

4. 改善方策

(1) 今回及び今後の各種調査結果の分析と課題の共有化を常に図り、指導に生かす。

・全国学力・学習状況調査、全学年CRT、全学年チャレンジテスト、WEBシステム・フォロー・サポート問題 等

(2) 全校共通の取組

・教室環境、学習規律の徹底、校内研修とリンクした学習過程、ノート指導（板書とノートの一体化）、課題とまとめを明示した一単位時間の授業づくり、授業の終末の定着時間の重視、生徒指導の充実 等

(3) 校内研修と公開研究会での検証を生かした授業改善

・主体的に学び、共に伸びる子どもの育成 国語科を中心とした思考・表現を重視したアクティブ・ラーニング型授業の確立 心を耕す道徳教育の充実 特別支援教育の手法を取り入れた効果的な指導の充実

(4) 習熟度別少人数指導を重視した授業づくりを行う。

・低学年の定着漏れの回避を重視する。
・すべての児童にわかる喜び、できた喜びを味わわせる。
・習熟度別少人数指導をより効果的に行うための指導方法の研究を進める。

(5) 朝学習・朝読書の効果的な取組（基礎・基本の徹底、計画的・継続的、保護者との連携）

(6) 家庭学習の手引き、生活リズムチェックシートを配付し、学習習慣や生活習慣を確立するための家庭への啓発の継続化

・家庭との情報の「交信」を意識し、取組を進める。
・家庭との連携をより深めていくための手立てについて考える。

(7) 放課後や長期休業日等における補充学習の実施。（放課後居場所づくり事業との連携）

家庭へのお願い

家庭で机に向かう習慣が、学力向上に大きく影響します。今回の調査においては家庭学習の習慣化が図られてきたことは見受けられますが、学習時間については更に伸ばしていきたいところです。

配付しています『家庭学習の手引き』を参考に、学校として目標としています「学年×10+10（分）」の時間をご家庭でも勉強するよう、今後も言葉掛けをお願いします。

夢や希望を!

夢や目標をもつと、今学習していることが、自分のこれからにどうつながるのかを意識するようになり、学習意欲も向上します。本校でキャリア教育の充実を図っている根底にはこうした考えがあります。ご家庭でも、日常から自分の役割やできるようになったことなどについて認めてあげる機会を大切にしてみてください。

